



これから本格的な夏がやってきます。水遊びや虫とりなど、こども達にとって楽しい季節です。

先月は伝染性紅斑（リンゴ病）、アデノウイルス、新型コロナウイルス感染症などの感染症で体調を崩すお子さんが多くみられました。小さいお子さんほど体調の急変もかんがえられますので、早めの受診をお願いします。

また、熱中症が心配な時期です。戸外活動はもちろん、室内の活動でもこまめな水分補給や健康観察を心がけていきたいと思います。

～夏に多い感染症～

ヘルパンギーナ

症 状	ケ ア
・38～40℃の高熱が2～3日続く ・のどの奥に白いぶつぶつができる ・のどの痛み、食欲不振	・のどに痛みがあるため、のどごしのよい食事 ・こまめな水分補給
出席停止期間 解熱後1日以上経過、普通に食事ができること	



手足口病

症 状	ケ ア
・口の中・手のひら・足の裏・体に痛みを伴う湿疹や米粒のような水疱ができる ・口内炎が悪化した場合、食欲が落ちる ・38℃前後の熱が出る場合もある	・のどに痛みがあるため、のどごしのよい食事、食後はぬるめのお茶などを飲ませ、食べかすを取り除く ・こまめな水分補給
出席停止期間 解熱後1日以上経過、普通に食事ができること	



プール熱

症 状	ケ ア
・39℃前後の高熱 ・のどが赤くはれて痛み、咳・目やに・目の充血 ・頭痛・嘔吐・下痢・腹痛を伴うこともある	・水分補給、口当たりのよい食事 ・使ったタオルは熱湯消毒した後、洗濯する
出席停止期間 症状消失後、2日経過するまで	

流行性結膜炎（はやり目）

症 状	ケ ア
・白目が真っ赤に充血する ・まぶたの裏にぶつぶつができ、涙や目やに・かゆみ・異物感がある ・耳前リンパ節が腫れて熱がでることもある	・水分補給、口当たりのよい食事 ・使ったタオルは熱湯消毒した後、洗濯する
出席停止期間 症状が消失し、医師が周囲の感染がないと診断するまで	





熱中症

強い日ざしの中で心配になるのが熱中症です。0・1・2歳のころは体温調節機能が未熟で、代謝も活発なので多くの水分が必要です。

「熱中症？」そのときに

子どもたちが大好きな夏ですが、熱中症には注意を。子どもに異変があったら、すぐに手当てをして重症化を防ぎましょう。



① 涼しい場所に移動する

風通しのよい日陰や涼しい室内に運んで寝かせ、服のボタンやベルトを外す。



② 体を冷やす

ぬらしたタオルで体をふき、うちわや扇風機の風を当てて体にこもった熱を逃がす。

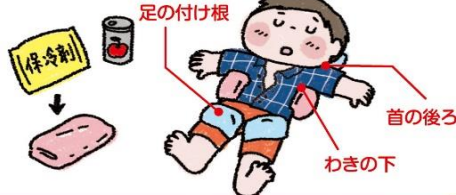


③ 水分を少しずつ与える

麦茶や子ども用のイオン飲料などをひと口ずつ与える。一度に飲ませず、様子を見ながら。

- ☐ 冷やしたタオル
- ☐ タオルに包んだ保冷剤
- ☐ 冷えた缶ジュース

などを挟んで冷やすと効果的



注意!!

39℃以上の発熱があり、ぐったりして意識がないときは救急車を呼びます

夏場に増える肌トラブル



とびひ

虫刺されや湿疹などで傷ついた肌を汚れたつめでひかくと、傷口に細菌が感染して「とびひ（伝染性膿痂疹）」になります。うみをもったような水疱ができ、強いかゆみが出ます。かゆいからといってかくと大変！水疱が破れて中の液が付いた所に、とびひがどんどんひろってしまいます。水疱を見つけたら、つめでひかかないようにガーゼで覆い、受診しましょう。

水いぼ

「伝染性軟属腫ウイルス」が原因でできる粟粒大のいぼで、おなかやひじ、わきの下などにできて広がります。いぼがつぶれて中の液が付くとうつります。体の接触、タオルなどの共有でうつりやすいので、注意が必要です。

プールもOKですが、傷がじゅくじゅくしているときはガーゼで覆い、プールも控えてください。

